

第5回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 令和5年（2023年）1月27日（金）14時30分から15時50分まで

場所 笛田リサイクルセンター 2階会議室

出席 橋詰会長、亀山副会長、浅川委員、芝田委員、大道委員、田子委員、奴田委員、保坂委員、
（※橋詰会長、田子委員、奴田委員以外は、オンライン出席）

<事務局>

環境部 能條部長、不破次長

ごみ減量対策課 中澤担当課長、太田課長補佐、石井環境指導監、藤田担当係長、國井担当係長、
奥村職員、高山職員

傍聴者 なし

議題 (1) 事業系一般廃棄物処理手数料(植木剪定材以外のもの)の改定について
(2) 戸別収集について

その他 本審議会に「鎌倉市における戸別収集のあり方について」諮問を行いました。

議題 (1) 事業系一般廃棄物処理手数料の改定について

事務局から資料1-1～3 事業系一般廃棄物処理手数料（植木剪定材以外のもの）
の改定について説明を行い、審議を行いました。

浅川委員：県内市町村と多摩地区の事業系ごみ処理手数料の状況について御説明がありましたが、多摩地区の方が手数料を高く設定している状況であることが明らかです。それぞれの市町村の事情によって手数料を決めていますが、鎌倉が400円に改定すると近隣市町村の手数料額に比べて高くなります。鎌倉の手数料が高くなると手数料が安い近隣市町村へ鎌倉のごみが流れるという危険性も考えられます。答申（素案）の中で、少量排出事業者収集制度の構築として、少量排出事業者を対象とした説明がありましたが、多量に事業系ごみを排出する事業者にとっても手数料がかなり高くなるので、手数料が安い市町村へごみが流れないように、今一度事業者へごみの適正な処理の周知をしていただければ良いと感じました。

不破次長：多量排出事業者や準多排出事業者については、日頃から個別訪問をいたしまして、適正排出の指導等を行っておりますので、処理手数料の改定の際には、改めてきちんと説明を行い、適正な処理をしていただくよう指導をしまいたいと考えております。

奴田委員：現在の鎌倉の手数料は250円で、多摩地区の近隣市町村は400円前後のところもあります。鎌倉の事情に合わせてより綺麗なまちにするためにも、少し値段を上げて良いのではないかと気がします。ただ手数料を改定することについて、市民や事業

者の皆さんにきちんと理解してもらえるような説明を広報等で載せていただいてから実行していただければと思います。

亀山委員：議題となっている金額の件ですが、ウクライナやロシアの関係で物価全体が上がっており、特に光熱費や燃料費の高騰は世の中全般的に課題になった1年だったのではないかと思います。そのことを考えると、今回手数料を改定することで近隣市町村と比べると鎌倉市は高い手数料になってしまうかもしれませんが、もしかしたら追随するような形で、近隣市町村も今後手数料の値上げを検討する可能性もあるのではないかと思います。もし近隣市町村の手数料の動向について情報収集などをされていたら共有していただけたらと思います。

不破次長：近隣市町村では、実際の処理原価の7割程度、中には5割程度で現在の処理手数料を設定しているようです。原価相当分を処理手数料とした方が良いという国からの通知を受けて、手数料を10割に見直していく協議を行っている市町村もあると伺っておりますが、具体的な値上げの時期については情報を得られていない状況です。

亀山委員：1回値上げをすると、しばらくは据え置かなければいけないので、世の中全体的に価格が高騰する傾向にあるということを考えると、今のタイミングで値上げをするのであれば、適正な価格に上げて良いと個人的には思います。

橋詰会長：こういう方針案でよろしいかと思います。波多辺委員と牧田委員が御欠席されていますので、事業者として次回御意見をお伺いできればと思います。

議 題 (2) 戸別収集について

事務局から資料2-1~5 戸別収集について説明を行い、審議を行いました。

芝田委員：説明資料がよくまとめられていて見やすいと思いました。資料2-1の4ページに収集車両は2倍になるけれど、ごみは減量するという説明をされていますが、なにか試算をされて出た結果ということでしょうか。

中澤担当課長：以前、3地区でモデル事業を実施した際に得た数値から算出したものです。元々集積所で収集していたときの量と、モデル事業で戸別収集したときの量から、約4%弱という減量率を算出し、全体で約700t減量するという説明をさせていただきました。

芝田委員：資料の作成の仕方として、モデル事業の検証結果の数値であることを記載すると説得力が出るかと思います。

保坂委員：資料2-5で前回の私の発言に対する回答も用意してくださいましたのでコメントします。以前は、経費に対する削減効果と市民理解の醸成不足というところを議会に指摘されて頓挫してしまったという経緯があったかと思います。事務局の回答にもあるように、多少経費がかかっても高齢者の多い鎌倉にとっては本当に必要であるということ、戸別収集を行うことで経費増になるものの市民への過剰な負担を強いるわけではないことなどを主張していくと経費の部分で指摘されることも少なくなるような気がします。経費面で色々改善していく余地があるという上で、必要なことはまず踏み出して行うということ、踏み出すだけの意味があるということをしつかりアピールすることはとても大事だと思っています。特に鎌倉のような高齢者の多い

ところでは、高齢者だけの世帯でゴミが全然出ていないということから、異常事態の早い発見に繋がるということあるかもしれません。良いことがあることを主張していくと戸別収集の意味、経費を下げる効果が少なくとも市民に経費面で過剰な負担を強いるほどではないという主張をして、市民の方に戸別収集になってほしいとお願いするだけではないと思います。車両の環境コストについて、資料2-1の4ページに700t減量するという想定で記載がありますが、この減量については自動的に減量するわけではなく、市民に協力していただかなければならない部分ですので、工夫して啓発する必要があると思います。以前の審議会でもよく強調していましたが、学校教育として子どもに啓発をして、子どもから家族に伝えることは効果のある啓発だと思います。また、環境部の他部署で去年の秋に鎌倉市気候非常事態宣言を表明していて、ゴミの減量などとも関連してくると思いますので、鎌倉市として総合的に方策を考えていただければと思います。

中澤担当課長：戸別収集は必要な施策であると思っていただけるよう空気感の醸成をしていく必要があると思っています。市が勝手に決めているという捉え方をされないように、SNSなども含め様々な媒体で広報するなどして工夫をしているところです。検討している段階から少しずつ広報していくことで、以前の戸別収集も思い出していただき、市民意識の醸成につながるよう環境作りに配慮しているところです。環境教育は、以前からゴミ減量対策課でも行っており、小学校などで出前講座をやっています。今後そのような場を活用して、どうして戸別収集をやろうとしているのかということをお子さんにもお伝えして、ご家庭に帰ったときに家族に話してもらえたらさらに空気感を醸成できるかと思っていますので、積極的に環境教育も行っていきたいと思っております。

大道委員：戸別収集にすることのメリットとして、見守りの効果が期待できるのではないかと思います。高齢者が4分の1になるという社会の情勢の中で、一人暮らしの方や鎌倉の場合は少し離れたところに住んでいらっしゃる方たちもいます。近年は防犯上の問題なども非常に多く発生しているので、戸別収集によって定期的に顔のわかる人が回収に行くことで、いろんなことが早く発見でき、お金では測れないような見守りの効果が期待できると思います。説明されるときに、そのようなメリットもアピールしていただけると良いと思います。また、最近はLINEによって、市の広報が非常にたくさん送られてきており、LINEの登録されてる方が非常に増えていますので、戸別収集に関する情報もこれからこういう形で進んでいきますという情報発信していただくとそれによって頭に刷り込まれることというのは非常に記憶に残りますので、さっき言われたようにSNSによる情報発信、これも続けてやっていっていただきたいと思いました。

橋詰会長：戸別収集は、福祉的な役割があるということで、市の福祉部局はどういうお考えなのか、また、市全体として、福祉部局と環境部局の連携についていかがでしょうか。

中澤担当課長：福祉部局との関係からお伝えしますと、既に声かけふれあい収集という制度があります。高齢者や障害をお持ちの方など、家の前に出ることが困難な一定の要件を満たす、現在は約600世帯を対象に週1回ご自宅に伺って分別されたゴミを収集するという制度を設けています。声かけふれあい収集の対象要件には当たらないけれどごみ出し

で苦勞されている方や子育て世帯にとって、戸別収集が福祉的なメリットになるかと思しますので、どのような福祉的なアピールができるのかというところは福祉部局ともしっかり話していきたいと思っています。そして見守り効果については、パッカー車にカメラやタブレットを搭載し、写真や動画を撮っておいて、行方不明者の捜索の情報として使うことも案として考えています。また、戸別に訪問するので、実際に収集に回ってる方が普段と違う異常を感知できることということも見守り効果としてアピールしていきたいと思っています。LINEについては、実際に既に発信していて、今後も2回ほど発信を予定しています。今後も積極的に発信していきたいと思ます。

保坂委員：私は大学に勤めていますが、最近はメールを使う学生は少なく、みんなLINEを使っています。また、学内でいろいろな学内LANを使ったサービスを提供していますが、積極的に使う人とそうでもない人がいたりします。関心があるものや、単位に関わるなど必要性があると、そのようなサービスを使うようですが、興味がないものは見ていないようで、学生とのコミュニケーションをとることに先生方は苦勞しています。若い人に限らず、特に年齢の高い人であればなおさら見てもらうということがとても難しいと思います。また、市として広報したい情報をただ流していただくだけでは関心がなかったらなかなか見てもらえないと思います。年齢が定まっていれば、見てもらえる作戦を立てやすいですが、市民への広報であれば幅広い年代が対象なので、多角的なアプローチをして、見てもらえるよう工夫することがとても大事だと思います。

田子委員：今LINEで発信をしているとのことですが、年寄りにはLINEの使い方を知らない人がまだたくさんいて、大船地区ではスマホサロンというので年寄り向けのスマホ教室を開催しているところで、他地区でも今後開催していこうと進めているところです。また、小学校では学年によって興味や疑問がある内容を学習していて、4年生はお祭り、5年生はごみ問題、6年生は福祉関係について勉強しているようです。小学生は自分たちに行動できることや手伝えることについてすごく興味を持っていて、施設などに見学に連れて行くと自分たちでできることを考えて、疑問を解決しようという意識があるので、子どもたちに環境教育をすることは大事だと思います。

浅川委員：ごみの減量に取り組む過程の中で10年程前から戸別収集に取り組み、検討しており、有料化を先行して行ってごみの減量の実績も作ってきているわけです。今、なぜ戸別収集が必要なのかということについては、市長からの諮問内容の中に、いろいろな社会情勢の変化を踏まえて市民サービス向上や福祉的な観点も含め改めて検討して実現していくと書かれています。これまで対応しきれなかった部分が対応できるようになる、基本計画にも記載されている排出状況の悪いクリーンステーションがなくなることで収集環境や景観が向上するなど、前向きなお話も出ています。そのような前向きな部分はとても大事なことだと思いますし、十分市民の皆さんにも御理解をいただいく必要があると思います。資料2-5の2ページの牧田委員への回答で、クリーンステーション収集で生じている様々な問題に着目し、10年後20年後も持続可能な収集のあり方の一つとして戸別収集が必要であることについて丁寧に説明していくと書いてあります。このクリーンステーションで生じている様々な問題について、

実際に市民の方からいただいている切実な問題を説明していくと理解していただきやすいかと思います。例えば東京 23 区では、道路上に集積所を設定して収集しているところが多くあります。集積所の位置は、基本的には住民の皆さんで話し合ってもらって自主的に決めていただけていますが、自分の家の前にくることを嫌がってなかなか集積所の位置を設定できないという問題が徐々に増えてきていました。鎌倉でもそのような切実な事情があれば、もう少し具体的に説明していただいた方がいいかと思いました。

田子委員：浅川委員がおっしゃったステーションの件ですが、家の前に置くとなるとどこの地域でも嫌われているような気がします。私の町内会でも新しい家が2、3軒建つときにステーションを作るように不動産屋に市とお願いしているけれど、なかなか作られず、住み始めたら勝手に近くのステーションに捨ててしまっただけでトラブルになることがあります。私が間に入って調整することがあります。できれば全部の品目が戸別収集になってステーションがなくなるのであれば、みなさんに御理解いただきやすいのではないのでしょうか。

中澤担当課長：戸別収集を実施する理由として、以前は減量効果を中心に説明していましたが、今回はクリーンステーション収集に伴う様々な負担の軽減がキーワードであると思っています。この様々な負担として、今浅川委員や田子委員がおっしゃった新たな方が来たときのクリーンステーションの位置の調整の御負担、何十年も自分の家の前がクリーンステーションになっていて動物被害などで散らかったごみの清掃をしてくださっている方の御負担、クリーンステーションの管理を当番制でやっている地域がある中で、共働き世帯はなかなか当番に従事できず、いつも同じ方が当番や清掃をしてくださっていることに対する心理的な御負担、高齢になりクリーンステーションまでの往復が難しいという御負担など様々な御負担があります。今後の説明会では、実際にいただいているクリーンステーションに対する具体的な御負担などの事例を説明して、戸別収集によりそのような御負担が解消されるということをアピールしていきたいと思っております。

奴田委員：戸別収集についての話をしていますが、収集したごみは今後どこで処理するのでしょうか。逗子や葉山で燃やすということですが、また鎌倉のごみは鎌倉で処理するということをお考えでしょうか。

不破次長：収集した燃やすごみは令和6年度末まで名越クリーンセンターで焼却し、令和7年度からは、逗子市葉山町鎌倉市で2市1町の広域化による共同処理を実施し、燃やすごみは逗子市の焼却場で焼却をするという計画としております。

橋詰会長：当面はそのような計画ということで、その先まではまだ考えていないということですね。戸別収集の様々なメリットは市民も御理解いただけたらと思います。以前の議会でも言われていた戸別収集のコスト面については、特に御理解を十分に得られるかが重要かと思っています。コストについて、大した負担ではないという言い方をするのか、戸別収集という価値のあることを実施するのでありそれなりにコストがかかるのは当然のことでコストを補ってなお余りある価値があるという伝え方もできると思います。その価値をどこまでわかりやすく説明ができるか、実感できるような工夫があ

ると良いかと思えます。

中澤担当課長：補ってなお余りある価値というところについてアピールの仕方を今考えているところ
でございます。先ほど申し上げたようなクリーンステーション収集に伴う様々な御負担の軽減をしていけること、そして将来にわたって個々がごみを責任持って御自身のお宅の前に出すという基本的な考え方のもとで、市が収集をするということを今後10年20年と継続して安定的な収集体制の構築に繋がっていくと考えています。収集経費については、他市でも戸別収集を導入することによって上がっているとのことですので、鎌倉だけが上がるわけではないというところも説明していきたいと思えます。また、戸別収集にするにあたり今後の収集品目の見直し、分け方・出し方の見直し、収集回数
の見直しなど市民の皆さんがより簡単な分別ができないかという検討を行い、新たな収集体制を構築して、可能な限りのコスト削減に努めていこうと考えています。また、収集だけでなく収集後の中間処理についても効率的な処理ができればさらなるコストダウンに繋がると思えますので、色々なコストダウンの可能性もお示ししながら、今後説明していきたいと思っております。

そ の 他

事務局から次回の審議会の日程の説明を行いました。

奴田委員：新聞を2社から取っているのですよ。1社は天気に関係なく、ポリ袋に入れて配達されます。もう1社は雨の日だけポリ袋に入れて配達してきます。ポリ袋の使用を雨の日だけにすることでポリ袋の排出がかなり減量すると思えますが、市から新聞社へ指導やお願いはできないのでしょうか。減量審の委員をやっているとごみやプラごみの減量について気になってしょうがないです。鎌倉市だけでなく、日本全国でやればかなりプラごみを削減できると思うので、意見として言わせていただきます。

橋詰会長：本日予定しておりました議題は一通り終わりましたので、これをもちまして第5回鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会を閉会いたします。

<終了>